

第6号 (2000. 1. 17発行)

国絵図ニュース

発行 国絵図研究会 〒862-0971 熊本市大江2-5-1
熊本学園大学社会福祉学部上原研究室内
TEL 096-364-5162・FAX 096-372-0702

国絵図研究会第11回例会

研究会と税務大学校所蔵国絵図類の閲覧

本年の正月は全国的に天候に恵まれ、会員の皆様には清々しい初春をお迎えになりましたこととお慶び申し上げます。今年も宜しくお願い申し上げます。

さて、第11回国絵図研究会例会（幹事：小野寺淳）を、日本地理学会地籍図研究グループと国税庁税務大学校租税資料館のご協力を持ちまして、下記の日程で開催することとなりました。参加希望の方は、同封のばかきで2月29日までにお申し込み下さい。

● 日程

3月29日（水）研究会：早稲田大学（日本地理学会地籍図研究グループ集会）13:00～

早稲田大学本部キャンパス（東京都新宿区西早稲田1-6-1）

山手線高田馬場駅下車早大正門行10分終点下車、地下鉄東西線早稲田駅下車徒歩7分

※日本地理学会春季大会の会場です。国絵図研究会のみに参加されます方は、日本地理学会大会の参加費は不必要です。直接、地籍図研究グループの会場において下さい。

13:00～14:30 白井哲哉（埼玉県立文書館）：国絵図と川々絵図—近世関東の事例から—
《下総寛永国絵図と関東の河川絵図についての報告》

14:30～16:00 佐藤次男（幕末と明治の博物館）：水戸藩の天保検地絵図について
《検地役人の測量風景図とそれを描いた絵師の経歴についての報告》

17:00～ 懇親会（実費）

◎宿泊は、各自でおさがし下さい。池袋周辺が便利です。

3月30日（木）国絵図・地籍図の熟覧：税務大学校租税資料館 10:00～16:00

税務大学校租税史料館1階説明室（埼玉県和光市南2-3-7）

地下鉄有楽町線有光市駅より東武バスにて10分、税務大学校前下車（池袋から1時間）

◎主な閲覧予定図 ※詳細は別紙目録参照のこと。また、租税資料室発刊の『租税資料目録』にも多数の絵図があります。閲覧の希望がありましたら2月29日までに、期限厳守にて同封のはがきでお申し込み下さい。

南部藩元禄陸奥国絵図（元禄11、12年の2枚、ただし剥離が激しく閲覧は不可かも）

元禄国境縁絵図（6点、秋田・仙台・南部藩の取替国境縁絵図）

南部藩領元禄海辺際絵図（2点）

南部藩天保国絵図（1点、14巻） など

問合せ先：小野寺淳 〒310-8512 水戸市文京区2丁目1番1号 茨城大学教育学部
☎&FAX 029-228-8294（ダイヤルイン）

研究余滴

臼杵藩元禄国絵図関係資料の管理体制について

渡部 淳

臼杵藩稲葉家文書（臼杵市立図書館蔵）には、豊後国元禄国絵図に関連する絵図・書状・覚書など100点以上の資料が現存する。

豊後国絵図元に指名された岡藩と臼杵藩は、内々に豊後8郡を4郡ずつ2地域に分け担当、各地域に所領を有する関連諸藩（8藩・1公家領・1寺社領・御料）と主に江戸において折衝を重ね、まず4郡絵図・郷帳を各々で作成し、最終的に岡藩を清絵図元として一国単位の国絵図・郷帳を完成させた。

この過程で臼杵藩に集積された資料が、稲葉家文書の一部として伝来したのである。従って、臼杵藩に関する資料は皆無に近く、殆どは国内諸所領より提出された資料の正本または写しである。

小稿は、これらの資料の臼杵藩による管理体制について、その成立過程の概要を報告するものである。

豊後国絵図は元禄14年7月に上納されるが、国絵図改めに関する一件記録である『豊後国絵図御改覚書』（以下、『覚書』）によると、元禄14年6月22日付岡藩書状に次の一節が確認できる。

「兼而御相談申置候諸方より出候諸書付等本書之分弥御在所へ被遣儀ニ御座候哉、頃日被仰聞候趣能登守江茂申聞候処成程尤之儀ニ存候其許様本書之分御在所へ可被遣候ハハ此方茂其通ニ仕候様ニと申付候」

これ以前、岡藩は正保国絵図資料を嘗て江戸屋敷で消失したことを理由に、資料の国許管理を臼杵藩に打診したが、これに対する返答がこの書状である。ここに両藩集積の諸資料は国許で管理されることが決定した。

江戸における臼杵藩の作業は江戸下屋敷に設置された御絵図役所で行なわれたが、諸資料の本来的所属は上屋敷御納戸方にあったようで、御絵図役所の長持に収納されていた諸資料は、絵図が上納された元禄年後半には、上屋敷御納戸方に移管され、順次国許へ送付されたようである。

『覚書』では、元禄14年7月までに江戸での作業を記し、9月からは帰国した絵図役人による国許での作業記録となっている。

国許での資料管理に関しては、『覚書』から次の如き記述が抽出できる。

「諸方より出る郷帳等入箱作成」（元禄14年10月2日）・「御絵図方御用長持等御納戸方申談御蔵ニ入置」（同年12月4日）・「御絵図覚書並御絵図長持月番へ差出」（元禄15年5月22日）・「御絵図長持納戸より請取之」（8月28日）

絵図関係資料は、時に郷帳の如く個別の箱に収納された上で、「御絵図長持」に一括収納され御納戸方で管理されていたのである。臼杵藩稲葉家文書は国許の藩庁文書の来歴をもち、従って現存する国絵図関連の資料は、この藩庁御納戸方資料の一部であったと考えられる。

さて、国許での保存対策と並行して、御会所に詰める御月番の選択と指示により、江戸上屋敷に保管するための資料の扣の調整も進められた。

御書院中ノ間や三社屋敷あるいは小川伝右衛門跡屋敷等で行なわれた扣作成作業では、絵図方役人は1日単位で絵図長持を借用し、月番から命じられた資料の筆者に取り組んだようである。

元禄15年5月、江戸保管用の扣が出そろい絵図役人の高木佐左衛門・岩手新蔵から御月番へ上納された資料は以下の如くである。

正保御絵図写（1枚・箱入）・同郷帳上下（2冊）・當御改御絵図（1枚・箱入）・国東大分速見海部四郡御改中川因幡守様江被遣御伺図出候扣図（1枚・箱入）・同四

郡郷帳（1冊）・井上大和守様江被差出候変地帳扣（1冊）・筑前国境取替双方涯絵図（2枚・2袋）・筑後国境取替双方涯絵図（2枚・2袋）・同道程之書付（2通）・肥後国境取替双方涯絵図（2枚・2袋）・同道程之書付（2通）・同取替切抜涯絵図（2枚・2袋）・豊前国境取替双方涯絵図（2枚・2袋）・同道程之書付（2通・2袋）・同切抜涯図（1枚）・日向国境豊後涯絵図（1枚）・同道程之書付（1通）・同切抜涯図（1枚）・梓山論御裁許絵図写（1枚）・豊後国境日向肥後筑後筑前五カ国古御絵図涯絵図写（5枚・1袋）

国許での本書保存と江戸藩邸での扣保管という体制は、例えば岡・臼杵両藩と同様に肥後熊本藩でも確認でき、この場合には明暦の大火による江戸藩邸資料の消失が教訓となったようである。江戸の頻繁なる火事に対する用心が一つの契機となり、かかる管理体制が成立したのであろう。



臼杵図書館での国絵図閲覧の一瞬

各地の国絵図と関係資料

三重県上野市立図書館所蔵「伊賀国元禄国絵図変地帳」

磯永 和貴

三重県の上野市立図書館には、元禄国絵図に関する史料が残されている。特に「伊賀御国絵図後鑑」は、元禄国絵図の編纂過程が具に記録された貴重な史料である。この資料については、すでに川村博忠の論考がみられ、杉本史子によって抄録が『三重県史』絵図編に翻刻されている。そこで今回は、「伊賀国元禄国絵図変地帳」である「伊賀国変地其外相改之候目録」を紹介する。

元禄伊賀国絵図は、正保国絵図と同じく伊賀国一円を領していた伊勢国津の藤堂藩が行なった。実質は、伊賀上野の城代家老である藤堂采女が指導した。本史料は、杉本も述べるようにその采女家文書に含まれるものである（表紙裏面「菊山書簡」の佐々木広宣氏は采女家子孫）。また、実務は後書きの差出人友田角左衛門と柴田平兵衛などがあつた。

本帳は、青表紙本で国絵図の献上日と同じく元禄一三年七月の作成であることから献上変地帳の控とみなされる。本帳に記される「古御絵図・古郷帳」とは正保国絵図と同郷帳を、「新御絵図・新郷帳」は元禄国絵図と同郷帳を指し、正保国絵図の元禄国絵図での改定箇所が逐一書かれている。その内容は、一国惣石高、郡名、縮尺、道程、道筋、国境、村名、村高などであつた。

この中で注目されるのは、①元禄国絵図では郡名を延喜式段階に戻したが伊賀国では綾郡が阿拝郡に阿賀郡が伊賀郡に変更されたこと、②正保国絵図の編纂で幕府は一里を六寸の縮尺で描くことを求めたが伊賀国では八寸であつたこと、③元禄国絵図の村名村高は「御判物」通りにしたこと、④道路や国境が詳しく調査されていることなどであろう。

こうした改定箇所は、現存する正保・元禄伊賀国絵図の性格を検討するさいの重要な鍵となろう。国絵図との関係については改めて検討したい。なお、各村名すべてに付された振り仮名を省略し、はは「より」とした。

〔参考文献〕川村博忠「元禄国絵図の調整について」史学研究121・122号、1974年、同「元禄年間の伊賀国絵図改訂に際する国境論地の処理について」佐世保工専研究報告13号、1976年、三重県『三重県史』

「（表紙）伊賀国変地其外相改之候目録」

（表紙裏に便箋添付）

「この一冊は、佐々木広宣氏よりかねて寄贈有之候もの、別冊目録に有之、小生依頼を受け居候処、永らく忘れ居り、誠に申訳無之候、貴館より佐々木氏へ礼状差出し置かれ度、其節実はそのまゝ今日まで忘れ居りたる処、整理中思ひ出し誠に延引致し、という意味の文面御書添へ置被下度、これは特に頼入候

菊山

岩名様」

伊賀国 四郡

新郷帳

一、高都合拾万五百四拾石貳合

村都合百八拾貳ヶ村

古郷帳

一、高都合拾万五百四拾石

村都合百八拾ヶ村

右、古郷帳惣石ノ高式合書落候ニ付、此度新郷帳新御絵図ニ相改書記申候

一、東西道程 七里五町四拾九間

伊勢国境大岡寺峠と申所より山城国境座頭づかけ分木迄

一、南北道程 拾里六町三拾八間

大和国境印之岩と申所より近江国境壹本松之西迄

一、古御絵図ハ、壹里八寸之積リニ仕立御座候、今度壹里六寸と被仰出候ニ付、壹里六寸ニ相縮新御絵図仕立申候事

一、国境之山々古御絵図と違候所御座候、隣国境目申談新御絵図仕立申候事

一、郡境并山川往還道小路共古御絵図と違候所々御座候、或ハ新村新道等出来之所も御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事

一、古郷帳ニハ何郷と申儀并田畠之高旱損水損ハへ山芝山之書付其外無高之枝村等記有之候得共、相窺候上新郷帳ニハ指除キ申候

阿拜郡

此郡古御絵図古郷帳ニ綾郡と有之候、古来誤申候、御判物ニ阿拜郡と御座候ニ付此度奉窺相改申候

古郷帳嶋之原町

嶋原村

同 佐那具町

佐那具村

右式ヶ村古御絵図ニ付、新御絵図新郷帳ニ茂如此相記申候事

一、古郷帳高畑村

高畠村

右之内文字古郷帳書誤候ニ付、此度相改候

一、伊勢国北在家村ニ出ル往還道、古御絵図ニ国境より壹里山迄道程書付有之候、此度ハ兩國近村之道程書付候ニ付、古御絵図之書付不申候事

一、近江国深川村ニ出ル往還道、古御絵図ニ国境より壹里山迄道程書付有之候、此度ハ兩國近村之道程書付ニ付、古御絵図之書付記不申候事

一、山城国北大河原村ニ出ル往還道、古御絵図ニ国境より壹里山迄道程書付有之候、此度ハ兩國近村之道程書付候ニ付、古御絵図之書付記不申候事

一、小杉村より同郡倉部村ニ之道、下柘植村之内市場村より同郡下柘植村ニ之道、玉瀧村より同郡西湯舟村ニ之道、御代村之内市場村より同郡愛田村ニ之道、服部村より同郡羽根村ニ之道高畠村より同郡上野村大道筋ニ出会之道、大乃木村より同郡法花村ニ之道、比曾河内村より同郡音羽村ニ之出道、右之道筋共古御絵図ニ書落申候ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事

一、嶋原村之内奥村より山城国北大河原村ニ出ル道筋、古御絵図ニ無御座、此度兩國申合相改新御絵図ニ書載申候事

一、嶋原村と山城国大河原村と国境山形川筋論所ニ而御座候処、元禄十三庚辰年二月御裁許相済御墨引之通相改新御絵図ニ書載申候事

一、嶋原村之うち川南村より山城国田山村ニ出ル道并南之方山形も古御絵図相違仕此度相改新御絵図ニ書載申候事

一、比曾河内村、丸柱村、槇山村右三ヶ村と近江国神山村と国境山形川筋等論所ニ而御座候処、元禄十三年庚辰年二月御裁許相済御墨引之通相改新御絵図ニ書載申候事

一、槇山村より近江国勅旨村ニ出道付所古御絵図相違仕此度相改新御絵図ニ書載申候事

一、槇山村より近江国上磯尾村ニ出道付所古御絵図相違仕此度相改新御絵図ニ書載申候事

一、玉瀧村より近江国深川村ニ出ル道古御絵図相違仕候、玉瀧村之村中を通り申候故、此度相改新御絵図ニ書載申候事

一、上柘植村之内岡花村より伊勢国北在家村ニ出ル道付所古御絵図相違此度相改新御絵図ニ書載申候事

一、馬田村之高五百四拾壹石余を七石余と書誤有之候、此度相改新御絵図ニ書載申候事

一、西湯舟村高有之、御判物ニ茂出申候、古御絵図古郷帳ニ枝村ニ成高付け無御座候、此度

相改新御絵図新郷帳ニ書載申候事

- 一、上拓植村之内岡花村より伊勢国加太村之内北在家村ニ出ル道、古御絵図ニ伊勢国関之地蔵ニ出ル道と書付候御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、上拓植村之内倉部村より近江国田堵野村へ出ル道、古御絵図ニ近江国須山油日村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、玉瀧村より近江国深川村ニ出ル道、古御絵図ニ近江国水口石部村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、槇山村より近江国上磯尾村ニ出ル道、古御絵図ニ近江国磯尾村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、嶋ヶ原村より山城国北大河原村ニ出ル道、古御絵図山城大河原村境京奈良出ル本道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、西山村より近江国多羅尾村ニ出ル道、古御絵図ニ近江国瀬田村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事

山田郡

- 一、伊勢国北長野村ニ出ル往還道、古御絵図ニ国境より壹里山迄の道程書付有之候此度両国近村之の道程書付候ニ付、古御絵図之書き付記不申候事
- 一、平松村より同郡子ノ日村へ之道、富永村より同郡槇野村大道出会之道、出後村より同郡中村前大道出会之道、高山村より同郡喰代村ニ之道、中友生村より同郡下友生村ニ之道、右之道筋共古御絵図ニ書落有之候ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、平松村より槇野村迄之間、古御絵図以後川筋替申候ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、平田村より下阿波村、槇野村、平松村此村迄野間古御絵図以後道筋、川筋替り申候ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、上阿波村野駅古御絵図以後平松村へ替り申候ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、中友生村高有之、御判物ニ茂出申候、古御絵図古郷帳ニ枝村ニ成高付無御座候此度相改、新御絵図、新郷帳ニ書載申候事
- 一、志留付村より伊勢国河内村之内染ヶ野村ニ出ル道、古御絵図ニ伊勢国河内村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、志留付村より伊勢国北長野村ニ出ル道、古御絵図ニ伊勢国津ニ出ル本道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事

伊賀郡

此郡古御絵図古郷帳ニ阿我郡と有之候、古来違申候、御判物ニ茂伊賀郡と御座候ニ付、此度奉窺相改申候

- 一、伊勢国入道垣内村ニ出ル道、古御絵図ニ国境より壹里山迄の道程書付有之、此度ハ両国近村之の道程書付候ニ付、古御絵図之書き付記不申候事
- 一、新田村より同郡郡村ニ之新道、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、比土村より同郡阿保村ニ之道、摺見村より山田郡中友生き村ニ之道、腰山村より同郡諸木村ニ之道、小山村より同郡比自伎村ニ之出道、右之道筋共古御絵図ニ書落有之ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、高尾村より伊勢国太郎生村ニ出ル道之上、山之形古御絵図相違御座候ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、伊勢地村より伊勢国入道垣内村ニ出ル道、古御絵図相違御座候ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、白檜村と大和国石打村と論所御座候而、貞享三年丙寅年ニ月御裁許相済御墨引之通此度相改、新御絵図ニ書載申候事
- 一、白檜村、治田村、大龍村大和国境古御絵図山川筋共ニ相違御座候ニ付、此度申合相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、小波田村より中村迄之間、古御絵図以後川筋違申候ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、新田村古御絵図以後、明暦元乙未年村居出来仕候故、此度書載申候、新御絵図ニ此村

壹ヶ村増申候事

- 一、古郷帳阿保町 阿保村
右、古御絵図ニ村と有之、其所ニ而も古来ヨリ村と相唱候ニ付、新御絵図新郷帳ニも如此記、申候事
- 一、伊勢地村ヨリ伊勢国入道垣内村ニ出ル道、古御絵図ニ伊勢国津、松坂ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、高尾村ヨリ伊勢国八知村ニ出ル道、古御絵図ニ伊勢国小西村ニ出ル道と書き付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事。
- 一、白檜村ヨリ大和国石打村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、治田村ヨリ大和国仲峯山村ニ出ル道、古御絵図ニ大和国畑村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事

名張郡

- 一、古郷帳築瀬町 築瀬村
右、古御絵図ニ村と有之其所ニ而も古来ヨリ村と唱申候ニ付、新御絵図、新郷帳ニも如此相記申候事
- 一、鵜山村ヨリ大和国鵜山村ニ出ル道、古御絵図ニ無御座、此度申合相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、薦生村ヨリ大和国北葛尾村ニ之道、古御絵図ニ無御座、此度申合相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、葛尾村ヨリ大和国菅生村ニ出ル道筋并山形、川筋此所論所ニ而古御絵図以後暖ニ而相済、此度相改落着之形新御絵図ニ書載申候事
- 一、安部田村ヨリ大和国長瀬村ニ出ル道、古御絵図相違仕川も書落、此返論所有之古御絵図以後暖ニ而相済、此度相改落着之形新御絵図ニ書載申候事
- 一、布生村ヨリ伊勢国太郎生村之内猿子村ニ出ル道、山形、川筋共論所ニ而古御絵図以後暖ニ而相済、落着之形此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、布生村ヨリ大和国伊賀見村ニ出ル道筋、東之山ヨリ西ハ鬼ガ坂越道之所迄山形、川筋共不残論所ニ而古御絵図以後暖ニ而相済、落着之形此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、薦生村ヨリ同郡八幡村ニ之道、柏原村ヨリ同郡星川村ニ之道、長瀬村ヨリ同郡瀧之原村ニ之道、布生村ヨリ同郡長瀬村ニ之道、右之道筋并古御絵図ニ書落有之ニ付此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、築瀬村ヨリ長屋村瀧古口村ニ之道、古御絵図以後道筋替り申し候ニ付、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、布生村ヨリ伊勢国太郎生村之内猿子村ニ出ル道、古御絵図に伊勢国猿古村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、布生村ヨリ大和国伊賀見村ニ出ル道、古御絵図ニ大和国いそのうみ村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、瀧村ヨリ大和国今井村ニ出ル道、古御絵図ニ大和国曾尔村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、安部田村ヨリ大和国上笠間村ニ出ル道、古御絵図ニ大和国初瀬ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 一、安部田村ヨリ大和国上笠間村ニ出ル道、古御絵図ニ大和国笠間村ニ出ル道と書付御座候、此度相改新御絵図ニ書載申候事
- 右、此度相改無相違認申候、以上

藤堂和泉守内

友田角左衛門

元禄十三年庚辰年七月

同

柴田平兵衛

国絵図所在調査についてのお願い

国絵図の研究が徐々に広がりを見せ、その文化財や研究資料としての価値が普及し、各地で様々な図が発見されています。しかし、それらの情報は、地方に埋もれたままになっていることも少なくありません。自分の住んでいる地域の国絵図の所在はよくわかりますが、遠方にある場合などは把握がなかなかできません。会員の皆様には、こうした各地に所在する未だ世に知られなままに眠った国絵図の情報を多く持っておられることと存じます。

本会の発足当時からこうした情報を研究会で一元化し、会員に提供できないものかと、多くの皆様からのご希望が寄せられていました。国絵図のニュースの「各地の国絵図と関係史料」のコーナーは、こうした意図にそったものです。しかし、文章を書くとなると時間的にも労力的にも余裕がないといった声も聞かれます。

そこで、次の第11回例会で協議の上、最低限の情報に絞り、広く会員各位に情報を求めたいと存じます。また、こうした活動を通じて会員相互の連絡を密にし、さらには国絵図に関する刊行物へとつながる基礎資料にもしていきたいと考えます。

ご意見やご提案がある方は、事務局までお申し出下さい。協議の結果や詳しい内容は、国絵ニュース7号でお知らせ致します。会員の皆さんの積極的な参加とご協力をお願い申し上げます。

■ 1999年文献紹介

福島雅蔵：河内国天保郷帳・国絵図の調進一村方史料を中心にして―（地方史研究281）

喜多祐子：正保国絵図における支藩領記載について―周防・長門両国を事例に―（歴史地理学196）

◎新入会員の紹介

工藤茂博（姫路市立城郭研究室学芸員）

〒670-0012姫路市本町68-258 日本城郭研究センター内

TEL0792-89-4877 FAX0792-89-4890

本年度の会費を未納の方は、至急お支払い下さい。2000円です。

編集後記

♡今回の研究余滴は、渡部淳先生から第10回臼杵例会の参加者に配られました原稿を掲載しました。ありがとうございました。また、各地の国絵図と関係資料は、あらたな試みとして史料の翻刻を掲載しました。原稿や情報を随時募集します。下記の編集担当まで気軽に投稿下さい。

♣我が家では、Y2K問題の細やかな対処として風呂をいっぱいにし、空いたペットボトルに水を入れたものの何もありませんでした。コンピューターに踊らされ、何か損をしたような気持ちになりました。皆様のお宅はいかがでしたか。

△次回の例会は日本地理学会地籍図グループとの相乗りです。今後は、歴史関係の学会の開催日にあわせることや共催も考えていきたいと思ひます。積極的なご提案をお待ちしています。それでは、春早い関東でお会できますことを楽しみにしています。

《ニュース編集担当：磯永和貴》

〒611-0023 京都府宇治市折居台1-14宇治市歴史資料館内

TEL0774-20-1311 FAX0774-21-6800